

第 22 回中国地区大学男子ソフトボール選手権大会

会期:2022/11/19 12:41～

会場:福富多目的グラウンド

2 回戦

第 3 試合 A 球場

環太平洋大学 B 2 1 3 0 0 6

岡山大学 0 0 1 1 0 2

※規定により時間切れ

環:北川(3 回 1/3)安藝(回 2/3) — 松村

岡:田村 — 西垣

本塁打:大西(環)清水(岡)

二塁打:大西(環)

戦評(得点経過)

今大会は公式戦で次年度のブロックシードの係る大会ではあるが、中国地区のレベルアップのために本学から 2 チームのエントリーで試合数増加への協力要請があり経験を積むオープン大会の要素を兼ね備えた大会です。本学は 2 回戦からまず B チームが登場。

1 回表、1 死から 2 番木之本が内野失策で出塁。続く 3 番の大西が 1-0 からの 2 球目を左中間スタンドへツーランホームランで幸先よく 2 点を先制。

2 回には、この回先頭の 6 番前田が四球で出塁し、すかさず盗塁を仕掛けると捕手の暴投を誘い一気にホームを陥れ 3-0。

3 回表には 2 番木之本が内野安打で出塁、続く 3 番大西が 3-2 から右中間へのタイムリーツアーベースヒットで 4 点目。4 番高草は四球で歩き盗塁と 5 番大城、6 番前田の連続の犠牲フライで 2 点を追加し 6-0 とリードを広げた。

4 回裏に岡山大学の反撃、8 番の清水に初球をライトスタンドへのソロホームランを許して 6-1。5 回には 3 回からリリーフした安藝が先頭を四球で歩かしてしまい、盗塁と捕手の 3 塁への悪送球により 2 点目を与えてミスによる課題を残す形となったが、6-2 で 2 回戦を突破。

新チームでの初戦で硬さが目立ち狙い球を捉えることが出来なかった。2 投手で 5 回 8 奪三振 4 四球とコントロールへの課題が残り明日への課題とりました。

2 回戦

第 4 試合 B 球場

島根大学 0 0 0 0
環太平洋大学 A 17 13 × 30

※規定により 3 回コールド

島:浜口 — 榎戸

環:下河内(2 回)松田な(1 回)— 柴田

本塁打:福島、岡田、奥間、稗田(以上環)

三塁打:明神(環)

二塁打:大橋、和田、植田、稗田、福島、足立(以上環)

戦評(得点経過)

環太平洋大学 A チーム、初回から打線が爆発。先頭の山本が四球を選び 2 番福島が 1-0 からレフトスタンドへ完璧なあたりのツーランホームランで 2 点を先制。3 番植田、4 番岡田の連続ヒットのあと連続の四球により押し出しで 3-0。1 死後 8 番柴田の押し出しの死球で 4-0。

9 番和田が初球をレフト前に弾き返し 2 者が生還し 6-0。1 番に帰り山本が 2 打席連続の四球を選び満塁。2 番福島は 1-2 から死球を受けて 7-0。

3 番植田は初球を捉えライト前へタイムリーで 2 人が帰り 9-0。4 番岡田は 2-0 から左中間スタンドへスリーランホームランを叩き込み 12 点目。続く奥間も 1-1 からライトスタンドへ 2 者連続となるソロホームランを放ち 13 点目。6 番大橋は右中間寄りのセンター前ヒットだが好走塁でセカンドを陥れるツーベースヒット、センターが処理をもたつく間に三塁まで進む。7 番明神の初球にワイルドピッチで大橋生還 14 点目。明神は 3-1 から左中間への三塁打。

8 番柴田は 2 打席連続の死球、9 番和田はレフト線を破るタイムリーツーベースヒット、レフトが処理を誤る間に 3 塁を陥れる。16-0。1 番に帰りこの回 3 回目の打席となる山本の内野ゴロの間に和田が生還し 17 点。

2 回裏、5 番奥間、6 番大橋連続四球、7 番途中出場の稗田が左中間へのタイムリーツーベースで奥間が生還。8 番柴田のレフトへの飛球を失策し大橋も生還してこの回 2 点目。9 番途中出場望岡がセンター前ヒットで柴田がホームを踏み 4 点目。

1 番代打足立が四球で出塁、2 番福島が左中間へツーベース、3 番途中出場平野がセンター前ヒット、4 番岡田のライトへの飛球を落球して 8 点目。5 番奥間は四球、6 番大橋は内野安打で岡田が帰り 9 点目。続く 7 番稗田がレフトスタンドへスリーランホームランを放ち 12 点目。8 番柴田は四球で出塁、進塁して 1 死 2 塁から 1 番足立がライト線へのタイムリ

一ツースペースヒットで13点を奪いトータル30点。

守っては先発下河内が2回を4奪三振、3交代わった松田(な)が、9球で三者連続三振を奪う圧巻の投球。

コロナ禍での練習の差が試合に反映された結果となる。